

たろう通信

こさい太郎(みなとかがやき)議員活動レポート

編集発行:みなとかがやき
共同編集:こさい太郎を育てる会
107-0062 港区南青山6-1-6-603B
Tel:5485-9111 Fax:5485-9100
e-mail:taro@kosaioffice.com
URL <http://www.kosaioffice.com/>

来年4月で二期目の任期満了

港区政はまだまだ課題山積

残りの任期も全力投球で参ります

ご無沙汰しております。小齊太郎です。たろう通信、約一年ぶりのお届けとなりましたことをお許し下さい。

さて、本年4月で、私の港区議会議員としての生活も8年目に入りました。この間、旧弊にとらわれることなく、また、しがらみに縛られることなく、時代の急激な変化に対応しながらもしっかりと将来を見据えた改革を志向し、思い切った発言、提案などの活動を続けて参ることができました。これらは、まさに私の政治生命であり、多くのみなさまによってその生命を与えて頂き、支えて頂く中でのみ存在たり得ます。この私の政治生命を支えて下さる多くのみなさまの期待に応えられるよう、心おごることを厳に慎みながら、これまでの政治姿勢を曲げることなく、引き続き港区政の改革、そして、更なる発展に力を尽くして参る決意です。

この7年、港区政改革に取り組んで参りました。その中で、官が民に優位であるという、いわゆる「官尊民卑」の考え方は、私た

ちの継続した指摘や追求もあり、変化を見せつつあると捉えています。すなわち、現業系といわれる仕事、学校警備や学童擁護(緑のおばさん)等は、民間委託あるいは職の廃止が決まり、着実に実行に移されつつあります。また、学校給食調理や運転職についても、民間委託に向けた動きが見え始めています。私は、これらの流れをさらに加速させるべく努力を続けたいと思います。

しかしながら、これらの取り組みは、港区政全体からするとごく一部です。したがって、これらを一つの突破口として、区役所のスリム化、民間の力の導入、区民との協働に向けた大きな改革に結び付けていく必要があります。また、将来に向けたまちづくりについての、現区長の危険な発想も見逃せません。

将来世代に素晴らしい港区を引き継いでいくためにも、残り少ない任期ですが、今後とも全力で港区政にあたります。みなさまの変わらぬご支援をよろしく願いいたします。

小齊太郎

1970年(昭和45年)1月16日東京・渋谷区生まれ、公立小学校から私立早稲田中学・高等学校に入学。1983年に港区南青山に転入。

1993年早稲田大学社会科学部卒業。

都議会議員秘書・代議士秘書を経て、

1995年・港区議会議員選挙に立候補(新党さきがけ公認)、最年少で最高位当選。

1997年新人議員3名で「みなとかがやき」を結成。

1998年新党さきがけを離党、無所属に。

1999年港区議会議員選挙に立候補、第9位にて当選。「みなとかがやき」幹事長として二期目の議会活動をスタート、現在に至る。

現在、総務常任委員会、防衛庁跡地等調査特別委員会所属。区議会だより編集委員。

赤坂消防団第三分団員、東京六本木ライオンズクラブ会長、南青山六・七町会役員、都市政策研究会(顧問:田中秀征氏)メンバーなど…

趣味は、草野球・ボーリング・ゴルフなど(すべてたいたことのない腕前なのですが…)

ホームページ稼動中です
<http://www.kosaioffice.com/>
e-mail taro@kosaioffice.com

月に1回から2回更新しています。また、日記(週に一度くらいになっています)のページもあります。ぜひ、みなさまにご覧頂き、ご意見等を頂ければ幸いです。メールもお気軽にお寄せください。よろしく願いいたします。それと、不定期ですがメール通信も発行しています。ご希望の方はメールでお知らせください。

ご意見・ご要望をお寄せ下さい
同封の返信葉書をご利用下さい

区政に関するご意見・ご提案、小齊太郎への叱咤・激励等どんなことでも結構です。ぜひお寄せ下さい。同封の葉書をか、お電話・FAX・e-mailでもどうぞ。

議会活動は通信かがやきで

議会における活動については、たろう通信と別に「通信かがやき」を発行しています。中綴じしましたのでぜひご覧下さい。

あるメーリングリスト によせて

港区政のいくつかの課題 からみた問題点

小齊太郎です。久しぶりに参加させていただきます。

「甘えとたかり」をキーワードに議論が白熱しているようですね。私としては、「甘えよう、たかろう」と思っている人は当然いると思いますが、それよりも、純粋に「保養施設があるから行こう」とか「活動を応援してくれるなら補助金をもらおう」と深く考えずに行動している方が圧倒的に多いと思います。いかに自らの税金が浪費されているのかということは、サービスを受取るときは考えていないということなのでしょう。ですから私は、税金の使われ方の実態をできる限り明らかにして、できる限り多くのおみなさんに現実を知ってもらおうと活動しているわけです。これは、最近のK議員も基本的な姿勢は同じだと思います。

私としては、みなとかがやきとして、このメーリングリストで話題となっている「大平台みなと荘問題」や「家賃滞納問題」、「補助金改革」など予算執行の実態や他区の事例との比較などをしながら、港区議会では、常に先頭にたって取り上げてきたと自負しています。さらに、広報誌などでその実態をお知らせしているつもりなのですが、力不足で、論議が広がりをもたないことは残念です。

「たった二人の会派」と区長に名指しされただけあり、少数で取り上げられることには限界があるのも事実です。私が以前さががけに所属していたとき、当時の菅直人厚生相がエイズ問題の追及の際に、「一点突破、全面展開」という言葉を使っていました。さががけという小さな政党でも、この問題を突破口にして、行政のあらゆる歪みを正していこうという決意の言葉でした。その後の菅氏の行動には賛同していませんが、この言葉は、今の私たちにもあてはまるものと思っています。ただ、全面展開に至るだけの材料にまだぶつかっていないのが現状です。全面展開には、国民、区の場合は区民の圧倒的な支持が必要ですから、それまでは、地道に行政の問題点を質していく、筋を通して進んでいくことが必要だと思っています。

少し長くなりましたが、もう一つ付け加えれば、今の港区にとって一番の問題は区長の姿勢・資質だと思っています。Aさん

の志向するように劇的には変わらないかもしれませんが、首長が変われば確実に区政は変わっていくと思います。少なくとも、補助金改革のための幅広い検討会の設置や区民保養についてのあり方をゼロベースで検討する、家賃滞納の一扫を図るとともに公的住宅のあり方を考える検討会を設ける、等々、こういうことはできると思います。今の区長は、意図をもってやらないというよりも、そもそも問題意識すらないのではないかとはっきり言って疑っています。

現実にMさんの住む豊島区では、区長が変わったことによって、自転車問題、場外車券場問題、リサイクル、補助金改革などかなりの部分でリーダーシップを発揮し、区民の議論を喚起していますよね。また、長野では、知事が気に入らなくて名刺を折ってしまう役人もいましたが、それは少数で、基本的には首長が一定の方向を指し示せば、そのように動いていくのが役人だと思います。多くの役人は、地方政治において主権者から直接選ばれているのは区長と議員だということを、好き嫌いは別にして認識しているはずで

Kさんが、

> 港区も「小さな政府」に基本方針を転換するようです。例えば、「仮称新橋六丁目養護老人ホーム及び知的障害者施設」を民設、民営で公募するとか、(委託方式から利用料方式への転換) 港区の人口増加のための区立住宅の建設運営を考え直すとかいろいろあります。非効率で高コストのことばかりやっていたら、財政収支の悪化を招き、終には自分たちの人件費さえ払えなくなります。コストが住民に降りかかるのは住民税をあげることを言っておられると理解しますが、その前に区職員、議員の数を減らすことになるでしょう。港区も今回の「基本方針」、「基本計画」の策定から、この基本方針の根本的変化を区民に知らせる意図はあるようです。

とおっしゃっていますが、それは一部の役人が部分的に言っていることであって、根本的解決にはならないと思っています。流れとしてはいいのですが、区は確固たる意志になってない。ですから、最終的なところではぼろが出て行くと思いますよ、区立幼稚園の大幅削減の計画を打ち上げた時、か、そういうことになると思う。「基本方針」とは何を指しているのかよくわかりませんが、少なくとも今議会で審議中の「基本構想」では、行政サービスの水準の高さを抽象的に誇り、あらゆる分野で一番になりたいと謳っているように私には読み取れません。(一部歪んだ形で区民に責任を押し付

けるかの記述もあるが…)とにかく、完全に羅針盤を失っている、と私は見ています。

最後に、大平台みなと荘については、

以下のような、Mさんのご提案が現実的だと思っています。私たちも、数年前から数次に渡り、同様の主旨で役所側には意見を伝えていますが、一度つくってしまった以上、廃止は失敗を認めることになるので役所は踏み切れないでしょう。やはり、そこで力になるのは、今までの流れとは違う人物が堂々と具体的改革を訴えて当選することです。もしくは、相当数の区民の声を結集させることだと思います。私としては、地道に、粘り強く訴えていくのが役割だと思っています。

> こういう人々には 区営施設に代る民間旅館を当座は区の補助と言う人參でしばらく利用してもらって区営とは比較にならないほどより良いサービスの現実を ご自分自身で実費を支出することで体感してもらい 世の実態を思い知らせて当然 と常々痛感しています。区営を民営に移管するする事が今や必然の課題となりましたがそのステップとして一挙に廃止し民営に進めるのは容易な決断ではないと思いますので 先ず補助金の供与というつなぎで凌いで最後は区営全廃へと進めるのが最も現実的な方法だろうと思考する次第です。

このメーリングリストのおみなさんの具体的な行動を切に期待します。区議の立場で協力できることがあればできる限り協力します。これは、政策の違いはありますが、ここに参加している議員のおみなさん全てが思っていることだと思います。

小齊 太郎

港区政についての活発な議論がなされている「メーリングリスト」に投稿した文章を転載してみました。最近の港区政の課題のいくつかについて議論されており、私の考え方を知って頂くのに適当と考えたからです。おみなさんのご意見を頂ければ幸いです。

なお、メーリングリストでの発言ですので、前後関係が不明瞭な点はご了承ください。また、個人名についてはイニシャルに変えさせていただきます。

メーリングリストの詳細は、
<http://www.egroups.co.jp/group/minatokusei>
をご覧ください。

小斉太郎の政治活動 会計報告

2001年(平成13年)分

小斉太郎後援会・こさい太郎を育てる会

2001年(平成13年)1月～12月 小斉太郎 政治活動収支概要

収入		支出	
前年度からの繰越	0	事務所家賃等・維持費	2,118,001
個人献金(ご寄付)	1,475,000	事務所光熱水費	94,147
小斉太郎自己資金	2,284,159	宣伝事業費(HP開設、運営、その他)	83,020
金融機関利子	53		
収入計	3,759,212	支出計	2,295,168
		翌年度繰越分	1,464,044

会計報告・収支概要のご説明

大変遅くなりましたが、昨年度の政治活動に関する会計報告を申し上げます。

みなさまからの寄付について

昨年も、多くのご支援を頂き本当にありがとうございました。頂いたご寄付は、企業・団体献金禁止を定めた改正公職選挙法の施行があり、全て個人献金となっております。私の政治活動は、皆様のご支援により成り立っております。今後とも、ご協力頂ければ幸いです。よろしく願い申し上げます。

なお、ご寄付の大部分は繰り越し、今後の活動に充てさせていただきます。今回のたろう通信発行費用はみなさまからのご寄付を使わせて頂き発行することができました。改めまして厚く御礼申し上げます。

事務所関連費用について

昨年度の支出の大半は事務所の維持経費でした。住まいが手狭なため、また、仕事にけじめをつけるために青山のマンションの一室を借りています。したがって、考え方としては、前年の繰越金を移転費用に充て、自己資金で運営するかたちを採っています。

小斉太郎の区政報告について

昨年は、10月にたろう通信を発行いたしました。この経費については、議会から会派に支給される政務調査費を充てました。郵送による通信の発行は一回でしたが、新たにホームページをリニューアルの上開設し、さまざまな報告の場として活用しています。今後、日常的にはホームページ上で、また、折を見て郵便によるたろう通信で、私の活動を報告していきたいと思っております。ぜひ、ホームページにもアクセスしてみてください。よろしくお願いいたします。

私のかかわっているNPO紹介

日本コミュニティーガーデニング協会

これからの社会は、役所、企業というセクターの他に、NPOという存在が大きなウェイトを占めることになると思います。私も、いくつかのNPOの活動にかかわり、社会に貢献する活動を勉強させて頂きながら実践しています。この「日本コミュニティーガーデニング協会」もその中のひとつです。

会長の外山たらさんはハーブの専門家であり、ハーブを広める運動から始まって、学校における総合学習のサポートや地域住民による自主的な公園管理のサポートなどを通じて、社会教育、まちづくり、環境保全などの推進を図っています。板橋区などでは、生徒と地域住民が一緒になって校庭にハーブの庭をつくり、自主的に管理する取組みも行なわれています。役所にお任せの地方自治から、専門的知識のあるNPOと連携し、住民自身で豊かな生活を演出していければ素敵なことではないでしょうか。

港区においても、公園や学校を地域の庭として、住民自身が創り管理できるようなしくみづくりをこのNPOを活用し実現できないか、今、動き始めています。「日本コミュニティーガーデニング協会」の詳しい紹介は、以下のホームページをご覧ください。また、このような活動に関心をお持ちの方は、ぜひ私までご連絡ください。地域の庭造り、はじめませんか？

日本コミュニティーガーデニング協会ホームページ <http://www.hana-midori.co.jp>

きょうこのコラム

こさい太郎と知り合って、今年でちょうど10年になる。

何を隠そう私は結婚して7年経った今でも料理が苦手で、本を見ないで作れるものなんて、そんなに多くはない。そう言えば結婚前も二人で動物園へ行った時、彼にお弁当を作ってもらったなあ(笑)。そんなエピソードもある位だから、初めからおいしい食事を作ることを期待されてはいなかったが、月日が経つにつれ、やっぱり食いしん坊の誰かさんはじわりじわりと攻撃してくるようになった。

「これもう2度と作らなくていいからね～」→「嫌々作った味がするよ」→「結婚して5年も経つのに旨い煮物の一つも作れないんだな!」と言われると、私はどンドンキッチンから遠ざかっていった。

「(カチーン)嫌なら食べなくていいよ。もう作らないから!」そんなケンカをこれまで何度繰り返しただろう。

先日、事務所で封入作業をしながら、もうすでに何千枚も刷り上がってしまっている印刷物だと知りつつ「何かこの文章パツとしないねえ～」と思わず言ってしまった。その言葉に逆上した彼は「おまえはもう手伝わなくていい!やる気がなくなるだろー!」と怒鳴り、大荒れ。本当の事を言う時は気をつけなければいけないと、この何年かで学習したはずなのに。相変わらず私はやる気の削ぎ魔で、足を引っ張ってばかりいる。

その翌週、久しぶりに料理の本を見ながらちゃんと作ったハヤシライスに「意外と料理上手なんじゃない?」と珍しくおほめの言葉を頂いた。ちょっと待って、そう言われたら次は何を作ろうかと考えちゃうぞ。その時、あっ、これなんだ私たちに必要なのは...と遅れ馳せながら気がついた。“下手でも上手だとほめること”これで我らはますますやる気になって木に登り、文章も料理もほんの少しずつ上達していくかもしれない。けなされて伸びるタイプもいるのだろうが、家庭の平和のためには、お互いしばらくこの作戦で行こう!

(きょうこ=小齊恭子=たろうの妻です)

時評

小泉首相の訪朝は 平和・安定に向けて 一定の成果があった

昨日、日本と北朝鮮の間において国交正常化交渉再開に向けた平壤宣言が採択された。

これまで「拉致問題は存在しない」と言い張ってきた北朝鮮が一転して拉致を認め謝罪したことは率直に驚き、さらに、六名の方が亡くなられているという発表は衝撃的であった。残されたご家族のみなさまの心中を思うと言葉もない。今後、拉致の経過やその後の生活、死亡の原因など拉致被害者のご家族の要望にかなう真相究明が絶対に必要で、国交正常化交渉の前提としなければならないことはいうまでもない。

拉致被害者のご家族の方々にとっては、どう考えても許すことができない問題であろう。しかし、今回仮に、拉致された方々の安否情報に納得せず席を立ったならばどのようなことになっただろうか。日本の最高責任者が彼の国の最高責任者と交渉

しているわけだから、まさか「持ち帰りませぬ」などともいえまい。日本の信用はなくなり、交渉する窓口も閉ざされ、戦争をも覚悟しなければならぬ事態を招くのではないか。世界の平和・安定も後退を余儀なくさせる。私は、日本は北朝鮮の変化を寛容の心を持って受け止め、将来のために過去現在の問題を一つ一つ話し合っていくことが重要だと考える。テーブルをひっくり返すのは簡単だが、ひっくり返してしまったら、話もできず、拉致の真相究明さえ困難になることは明らかである。私は、日本の安全、さらには、世界の平和・安定のため、拉致被害者のご家族の皆さんには是非ご理解いただきたいと思う。事務方では、スケジュール多忙で25日過ぎに面会、というような話もあるようだが、小泉首相には、是非早急に面会の決断をし、今回の経緯と率直な考えを伝え理解を得る努力をすべきである。

私は、総合的に判断して、小泉首相のこの度の訪朝の決断は正しいものであったと評価したい。これまで、北朝鮮と水面下で粘り強く交渉をもち、北朝鮮の変化に接し、リスクを伴いながらも首脳会談の決断をした首相の行動は、結果的に、日本の安全のみならず世界の安定に向けて実りのある言質を引き出したのである。核査察問題やミサイル発射凍結問題など、多くの点で国際社会のルールにのっとり対応する旨、北朝鮮が宣言したことは、諸外国でも驚きをもって受け止められ、評価されている。確かに、これまでの北朝鮮の行動からすると、果たして実行されるまで予断を許さない、にわかに信じられない部分も

あるかと思うが、独裁者ともいわれる金正日が姿をあらわし国際的に約束したのだから、そう簡単に反故にするわけにはいかないだろう。私は、この度の宣言をもって、交渉に応じる姿勢に期待を持ちたい。

過去の経緯から簡単には進まず長い道程にはなると思うが、この度の平壤宣言が、後世の人々にとって、素晴らしい歴史となっていることを祈らずにはいられないし、その可能性は十分にある。その意味で、私は、小泉首相の訪朝と決断を支持したいと思う。

(ホームページ小齊太郎日記9/18より転載)



編集後記

今回のたろう通信、通信かがやき、いかがでしたでしょうか。年に3回はと思っていながら、二期目の任期中はこれまで、年1回の発行にとどまっています。活動を報告するのが私の与えられた大きい任務のひとつなのですが、言い訳もできません。ただ、私の想像以上にインターネットの利用者が増えているようです。失礼ながら「えっ、この方が!」と思うような方まで活用されています。今後は、月に1,2回更新中のホームページへのアクセスもよろしくお願います。ご意見、ご感想もお待ちしております。